

ベライゾン コミュニケーションズ (VZ)

【セクター】 通信サービス

信買

【市場】 NYSE

信売

【企業概要】

AT&Tとスプリントを買収して規模を拡大したTモバイルUSと並ぶ、米国で最大級の通信サービス企業です。米国での携帯電話契約（プリペイド+後払い）の市場シェアをみると、2022年末時点で首位となっています。ワイヤレスサービスのほか、「Fios」ブランドで光ファイバーによるブロードバンドサービスも提供しています。過去25年以上連続して増配を行った企業という「配当貴族」の基準には該当しませんが、2023年12月期までの過去17年間、連続で増配を行っています。

【業績】（単位：売上高、純利益は百万ドル、EPS、1株配当、BPSはドル、ROE、自己資本比率は%、純利益、EPSは調整後ベース）

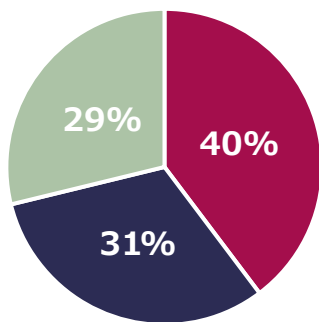
決算期	売上高	純利益	EPS	1株配当	BPS	ROE	自己資本比率
22.12期	136,835	21,389	5.09	2.59	21.7	24.6	24.4
23.12期	133,974	19,219	4.55	-	-	-	-
24.12期（予）	135,349	19,172	4.58	2.68	25.9	18.4	-

※EPS：1株当たり利益、BPS：1株当たり純資産、ROE：株主資本利益率

（出所）BloombergのデータよりSBI証券作成

【主要指標】

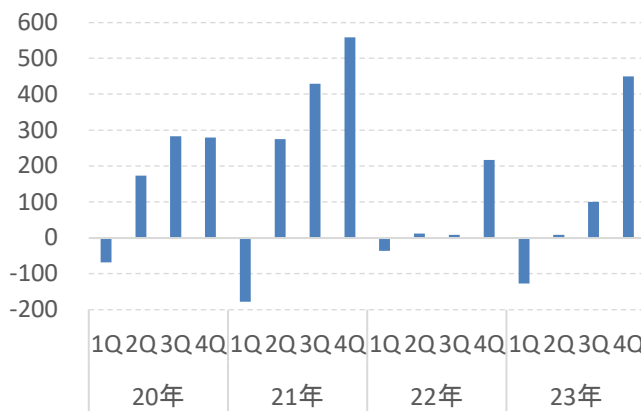
米大手3社の携帯電話契約市場シェア



■ベライゾン ■TモバイルUS ■AT&T

注：プリペイドと後払いの合計、3社以外を除くシェア
（出所）各社資料よりSBI証券作成、2022年末時点

リテール向け携帯電話契約の純増数（千人、後払いのみ）



（出所）会社資料よりSBI証券作成

【会社の見方】

低調な売上が続いていたワイヤレス収入に関して、サービス価格の引き上げ、従来より抑えたスマホ販促、取得した100メガヘルツ帯の稼働などを背景に改善の兆しがあり、2024年は前年比2.0～3.5%増への改善を見込んでいます。中期的には、5Gのサービス地域拡大、買収したTracFoneのプリペイド携帯事業の安定化、地域毎のマーケティング活動の強化などから売上成長力が高まることが期待されます。一方、ウォール・ストリート・ジャーナル紙が報じた、古い通信ケーブルの鉛による環境汚染が懸念材料です。4-6月期の決算発表時には顧客の自宅周辺にはないとしたものの、引き続き調査を行うとコメントしました。市場では撤去に数10億ドルレベルの費用がかかるのではとの懸念があり、株価の重石として意識されています。

【見通し・注目点】

10-12月期は売上が前年同期比0.3%減、調整後EPSが同9.2%減と低調でしたが、ワイヤレス・サービス収入は同2.6%増、また、携帯電話の後払い契約の純増が44.9万人と市場予想の22.9万人を大きく上回り、重要指標には改善の兆しが見られます。ブロードバンドの契約純増（家庭+企業）は5四半期連続で40万以上と好調です。2024年12月期ガイダンスはワイヤレス・サービス収入の伸びが前年比2.0～3.5%増、調整後EPSが4.50～4.70ドルです。

本レポートに関するご注意事項

- ・本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。万一、本資料に基づいてお客様が損害を被ったとしても当社及び情報発信元は一切その責任を負うものではありません。
- ・本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製又は販売等を行うことは固く禁じます。本資料の内容は作成時点のものであり、信頼できると判断した情報源からの情報に基づいて作成したのですが、正確性、完全性を保証するものではありません。本資料に記載の情報、意見等は予告なく変更される可能性があります。

手数料及びリスク情報等

- ・SBI証券で取り扱っている商品等へのご投資には、各商品毎に所定の手数料や必要経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等は価格の変動等により損失が生じるおそれがあります(信用取引、先物・オプション取引、商品先物取引、外国為替保証金取引、取引所CFD(くりっく株365)では差し入れた保証金・証拠金(元本)を上回る損失が生じるおそれがあります)。各商品等への投資に際してご負担いただく手数料等及びリスクは商品毎に異なりますので、詳細につきましては、SBI証券WEBサイトの当該商品等のページ、金融商品取引法等に係る表示又は契約締結前交付書面等をご確認ください。